

令和2年度 第1回  
千曲市林業振興協議会会議録

令和3年2月24日（水）

13時30分～15時00分

市役所 3階 302 中会議室

## 令和2年度 第1回千曲市林業振興協議会

### 千曲市林業振興協議会出席委員

若宮、羽尾、須坂、上徳間、内川、千本柳財産区	議長	塚田 茂雄
長野森林組合更埴支所	支所長	池田 真朗
千曲の森	代表	野崎 敏子
ながの農協 ちくま営農センター	センター長	小林 篤
千曲市区長会連合会	生萱区長	島田 正敏
千曲市区長会連合会	八坂自治会長	宮原 正木
千曲市建設業協会	理事	古家 正紀
みどりの少年団育成会	八幡小学校長	宮坂 久美子
一般公募		後藤 忠雄
一般公募		湯本 英夫

### 欠席委員

千曲市区長会連合会	若宮区長	豊城 重光
鳥獣保護管理員		宮坂 斉秀
長野地域振興局	林務課長	佐藤 繁
一般公募		宮坂 正英

### 出席事務局

千曲市	市長	岡田 昭雄
	経済部長	齊藤 清行
	森林整備係長	橋立 慎太郎
	森林整備係 主査	富永 聖宏
	地域林政アドバイザー	宮崎 広雄
長野地域振興局	林務課 課長補佐兼普及係長	千村 広道
	林業普及指導員	

《協議事項》

- (1) 千曲市森林整備変更計画（案）について
- (2) 千曲市森林経営管理制度実施方針（案）の策定について
- (3) 森林経営管理制度に基づく意向調査等の区域について
- (4) 千曲市森林づくり事業補助金及び千曲市森林経営計画促進事業補助金交付要綱（案）の策定について
- (5) 松くい虫防除対策事業について

その他事項

- (1) 長野地域振興局林務課より
- (2) 「第14回 みんなで育てる協働の森づくり」について
- (3) その他

《協議事項について、委員からの質問・意見等》

- (1) 千曲市森林整備変更計画（案）について  
(意見等なし)
- (2) 千曲市森林経営管理制度実施方針（案）の策定について  
(意見等なし)
- (3) 森林経営管理制度に基づく意向調査等の区域について  
(意見等なし)
- (4) 千曲市森林づくり事業補助金及び千曲市森林経営計画促進事業補助金交付要綱（案）の策定について  
(意見等なし)

## (5) 松くい虫防除対策事業について

委員 地形によっては伐倒駆除は難しいと思いますが、地上散布は道路からやっている場合が多いと思いますが、最近では人が行けない場所についてはドローンによる薬剤散布をやっているところも他県でも見受けられますが、県でそういったものに対する補助等お考えをお聞かせください。

長野地域振興局 空中散布につきましては、有人ヘリと無人ヘリによるものがあり、最近  
林務課 はドローンで実施しているところも増えております。

近いところでは、坂城町でも有人のところと、無人により実施しております。

最近では人の行けなかったところを無人ヘリで散布する場合も多いのですが、基本的には空中散布は「予防」でございます。枯れたものにつきましては、それから散布しても意味がないものであり、駆除することが必要であると考えます。

そういったできないところで、空中散布は非常に有効な手段ですが、農薬ということもあり、実施に当たっては住民のご理解等が必要になるかと思えます。

千曲市の考えにつきましては、市から説明をお願いします。

事務局 有人・無人の空中散布についてであります。平成28年度に中断した理由といたしましては、健康被害の懸念について団体様から頂いたり、それも踏まえたうえで、費用対効果上どれだけやってどれだけ成果が出るのか等総合的に見て見合わせようという結論となりました。

振興局とも協議をやっていくにあたり、空中散布を実施するには、住民の同意が必ず必要ということでございますので、やるとしたら、まずは地域の皆さまへの説明を経てといった形になるかと思えます。

なかなか難しいのは、市から薬剤散布を積極的にという形よりも、地元として「こういったことに困っている」といった要望を吸い上げながらといった形で進めた方が、結局は地元の方の了解も得なければならない話ですので、そういったものを踏まえて検討していくという方向で考えております。

委員 写真を見ると、道路からの地上散布を令和2年6月にやっているのですが、これについて地域住民と何か問題などありましたか。

事務局           この写真は例年実施している上山田地区の「戸倉上山田温泉」の文字がある場所で、本来伐倒駆除が出来れば良いのですが、法面の傾斜が厳しく道路の際で被害等が見られ、木を倒す際に作業する林業事業体の皆さんも現地に行くと少し怖いというのが現状です。

それと、実際に伐倒駆除ができない場所については、ヘリを飛ばすという方法もあるのですが、現状事務局では、そういった場所で被害があった木は翌年には枯れてしまうので、そこから周りに移った時点でそこを全部駆除をしていく考えでおります。当然予防という観点から手を打つことも有効ですが、どうしてもだめな個所については、周りの確実に切れる場所に被害がでたら全て駆除する必要があると考えております。

委員           ヘリなどはなかなか地域住民からの許可がもらえないと思うのですが、車からの地上散布については可能ということでしょうか。

長野地域振興局 林務課           地上散布は、場所を限定的に散布するので良いのですが、地上から噴射して散布するよりも、ドローン等を使って上から散布した方が効果的ではないか等研究しており、費用対効果なども含めながら今後も研究していきます。

委員           私は、家が寂蒔で国道としなの鉄道の間にあるのですが、目の前の山をずっと見て育ってきたのですが、いつの頃からか急に松が枯れてきてしまいました。「本当に悲しいな」という話を近所の方ともしていたのですが、公募の〇〇委員は近所で、この方はずっと故郷を離れていて、帰ってきてこの山を見たらすごく悲しかったといった話をした覚えがあり、そういった思いもあって、この委員に応募したのかなと思います。

山の姿が変わってしまったということが地域住民にとっては悲しいことだったんです。

いまは多分全部切ってもらって、しばらくの間ビニールを被った状態だったと思いますが、最近新しい木を植えてもらっているのでしょうか。

事務局           東山の件だと思いますが、県の事業で、平成27年・平成28年に植林をしていただいております。

ただ、松は元々土壌に栄養がないところに育つもので、今年度、同じようなお話を地域住民の方から頂き、現地に行って確認いたしました。木自体は育っているのですが、どうしても木が育つまでに一定の年数は掛かりますので、今しばらく見守っていただければと思います。

委員

一番ひどかった時期よりもちょっと良くなってきていると思っています。こうやって一生懸命やっていただいたんだと今日わかりました。

私は、八幡小学校長なんですが、12月に巣箱を作るというのをやらせていただいたんですが、最初はただ巣箱を作る話だと思っていたのが、話を聞いていくと、松くい虫の被害をなくしてゆく取組の中の一つということで、松くい虫のお話しを子ども達にもさせてもらったりして、意義がわかったのですが、高速道路に乗った時も、筑北のあたりの状況を見ると悲しくなります。長い取組みになるかと思いますが、引き続きこういった取組みを続けていただきたいと思います。

事務局

少し補足させていただきます。

現在、千曲市では森林づくり県民税を活用しながら、木工体験活動というものを実施しております。その中で、今年度はストーリーも大切にしながら、子ども達に木工体験をしてもらおうということで、市内のアカマツ材を使用してアカゲラの巣箱を作る、アカゲラというのは先ほど説明いたしました。マツノマダラカミキリ等を捕食してくれるので、そういった一環のストーリーの中で、昨年八幡小学校様にご協力いただき、3年生4年生で実施いたしました。

今後も、こういった活動を継続しながら子ども達に山の大切さですとかそういったものをうまく伝えられるように進めていきたいと考えております。

委員様がおっしゃるように、山は色々な役割を持っていて、当然災害ですとか、山を見て楽しむということもそうですし、そういった山の機能を維持していくために、今後も時間がかかる部分もあるかと思いますが、森林整備や啓発活動も進めていきたいと考えております。

委員

植林のお話がありましたが、植林の木の種類はどういったものを植えているのでしょうか。

長野地域振興局  
林務課

全体的な部分も含めてお話をさせていただきますと、長野県ではカラマツが非常に多いと思います。カラマツは一時期は扱いづらく、加工しても曲がったりヤニが出たりしていたのですが、近年は木が大きくなったのが一つ、もう一つは乾燥技術が向上しカラマツの需要も非常に高くなっております。カラマツは北海道と長野県、岩手が多く、他県はスギ、ヒノキが多くあります。カラマツは適地であります。最近では循環させるということ考えると、カラマツを植えるところも出てきております。また、循環的な施業ができないところにつきましては、人工林において天然更新や人の手で広葉樹を植えるという取り組みも増えております。多面的な森林の活用の中で、木材生産に適したところはカラマツなどの針葉樹、公益的機能が求められるところは広葉樹を植えたりしております。

もう一つは、松くい虫の抵抗性のある苗木の研究も進んでおり、100パーセント枯れないというわけではなく、4割程度ではありますが、抵抗性アカマツをアカマツしか育たない場所には植えるといった取り組みも始まってきております。

事務局

東山につきましては、広葉樹を植栽してございます。

委員

私は生萱区なんですが、生萱区は20年少し前に山火事がありました。そこを県で植栽していただいたのですが、地元への相談もなく植えられて、今見ますと、ヤマザクラを植えたのですが、アカマツなどは自然に育っておりますが、ヤマザクラが残っているのは数える程度しかなく、せっかくお金をかけて植えたのに地元にも相談もなく、育っていないという植え方や進め方について、地域とも相談をしながら進めていただきたいと思えます。

長野地域振興局  
林務課

事前に相談があったのかなど当時の状況はこの場ではわかりませんが、最近では山火事などの後、必ず地元で説明会を通してどういった木を植えるかについて話し合いはいたしますが、アカマツが生えていたところは、数年経過しないと菌が入っており、アカマツを植えても育たないため、実のなる木などを植えたりすることも多いのですが、初期の植栽により早期に回復させて、天然の再生の力を活かした造林も必要かと思っております。

また、場所も見させていただきながら検討させていただきたいと思えます。

委員

私は雨宮に住んでおり、生萱の山火事も良く覚えておりますが、どんどん燃え移ってしまっておりましたが、その時に、間伐をして区切ってあれば燃え移らないと言う方もいました。それをやっていないから土口の方まで燃えていってしまいました。

今もテレビでやっていますが、間伐等をぜひ進めていってほしいと思えます。

長野地域振興局  
林務課

以前は尾根等で20から30メートル範囲で木を植えない防火帯というものがあつたのですが、山の手入れ不足もあり、天然木が生えてたりして無くなってしまっているところもあるのですが、今も栃木県であるように、防火の点からも必要であるかなとは感じておりますので、研究をしていきたいと思ひます。

委員

私は10年前に千曲の森を他の方と立ち上げたのですが、木がどれだけ大切かということ改めて感じて立ち上げました。千曲市に樺平というところがあるのですが、平成24年に千曲市と森林の里親契約を締結しました。そういった活動をしていくことにより、みんなの関心が集まると思うので、私がここで勉強させてもらっても、他の人たちにはなかなか広げられないと思ひます。

そこで、7、8年前にスイッチという雑誌が作られ、そこに自然の大切さ、空気をきれいにしよう、水をきれいにしようといった色々なことが書いてありとても分かりやすいものでした。こういったものを千曲市でも作っていただいて、皆さんの目に留まる場所に置いていただき、どんなに自然が大切か、千曲市はどんなふうに苦勞してやっているかなどを皆さんに知ってもらいたいと思ひます。雑誌を持ってきたので参考にしてもらいたい。

それと、そういった活動などを皆さんの前で発表することが大切だと思ひます。私は、「千曲ふるさと物語」の代表をやっているのですが、皆さんに関心を寄せてもらうために小学校の児童の皆さんに舞台上で発表してもらう会なのですが、そこにチケット代を支払ってお客さんが見えて、大人も子ども達から教えられることがたくさんあります。

第4回目で、2019年9月28日に、稲荷山桑原八幡ふるさと物語を開催したのですが、ここで八幡の宝として美しい棚田が出てきます。子ども達が棚田でどんなことを学んだかを発表するのですが、八幡の自分達の宝は美しい棚田だということを、大人の知らないことも子ども達が一生懸命勉強して教えてくれました。

こういった発表するという事は非常に大切だと思ひます。そんな立派な雑誌でなくても良いとは思ひますが、また雑誌を作ろうとやっている人もいるので、そういった方にも相談しながら、是非こういった雑誌を作って皆さんの目に留まるようにしてほしいと思ひます。

事務局

広報の仕方としては、ホームページですとか市報ですとか折り込み等色々あるかと思ひます。貴重なご意見をいただきましたので、進めていきたいと思ひます。